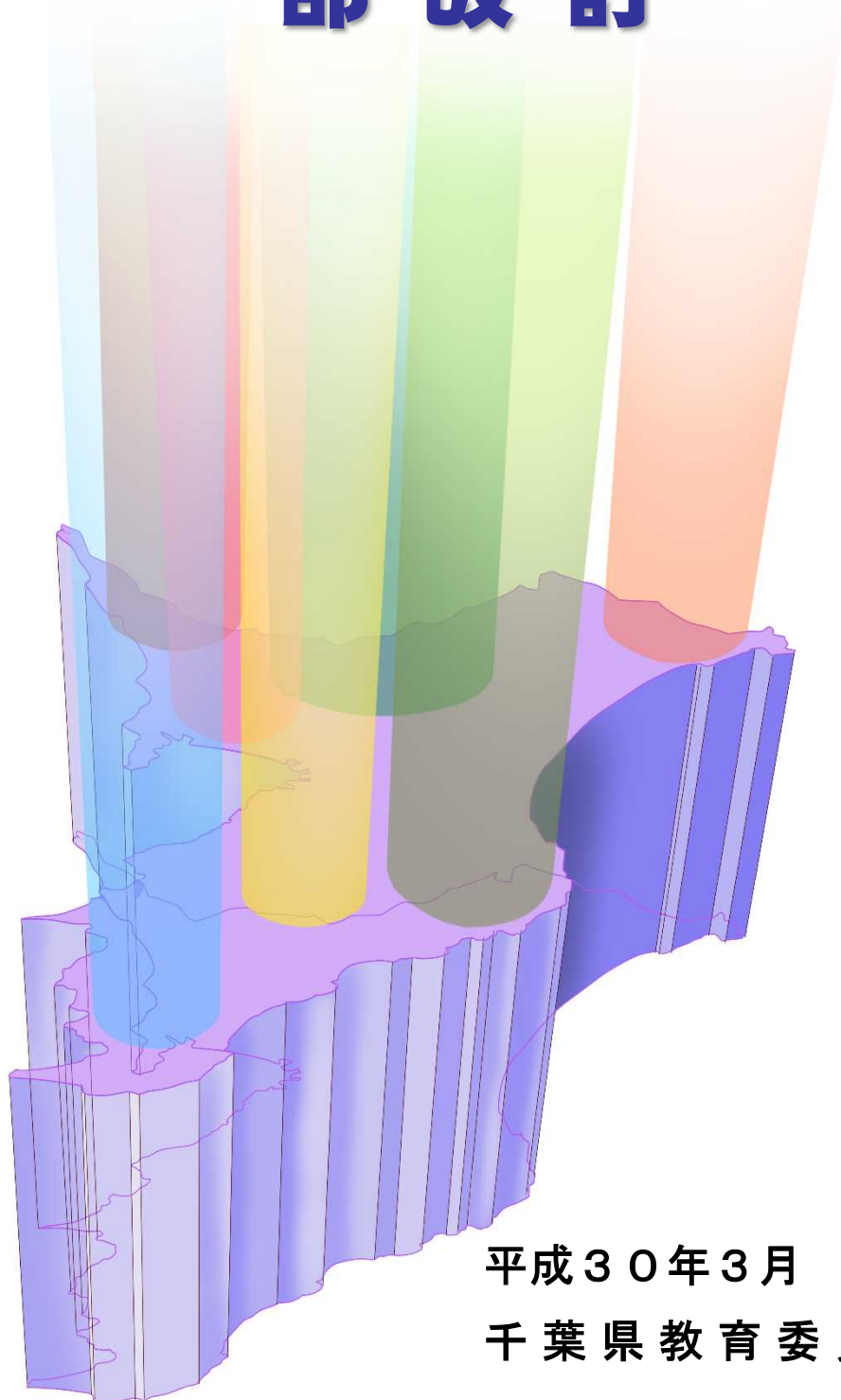




県立学校改革推進プランの 一部改訂



平成30年3月
千葉県教育委員会

目 次

I 本県のこれまでの高校改革・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 1 高校改革の流れ
- 2 第1次～第3次実施プログラムによる高校改革の実施状況

II 県立高等学校を取り巻く状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

- 1 国の近年の動向
- 2 本県の近年の動向

III プランの一部改訂の考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

IV プランの一部改訂・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

- 1 工業科
- 2 福祉科

V プラン（要約版）・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

- 1 魅力ある県立学校づくりの推進
- 2 県立学校の適正規模・適正配置

VI これからの高校改革・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8

- 1 プランに基づいた高校改革
- 2 すべての学校が取り組む魅力ある高等学校づくり
- 3 高校改革を推進するに当たって

参考資料

- 1 県立高等学校（全日制）の学科及びコース等の配置・・・・・・・・ 10
- 2 県立高等学校（定時制・通信制）の配置・・・・・・・・ 19
- 3 魅力ある高等学校づくりを進めるための様々な方策・・・・・・・・ 21
- 4 県立高等学校に関するデータ
(1) 県立高等学校（全日制）の募集学級数（平成30年度）・・・・・・・・ 23
(2) 県立高等学校第1学年生徒募集における学科構成（平成30年度）・・ 24
(3) 県立高等学校（全日制）設置学科の状況（平成30年度）・・・・・・・・ 25

I 本県のこれまでの高校改革

1 高校改革の流れ

本県では、平成元年3月をピークとして中学校卒業生数が大きく減少したこと、また、総合学科や中高一貫教育校など、新たな教育システムが国によって整備されたことなどを踏まえて、平成14年に「県立高等学校再編計画」を策定しました。この計画に基づき、平成23年度末を目標年次として、三部制定時制高校など新たなタイプの学校づくりや学校規模・配置の適正化等に取り組んできました。

この間、再編の評価を行うとともに、平成22年3月に策定された千葉県教育振興基本計画「みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」では、今後の魅力ある高等学校づくりの方向性を示し、「社会の変化に対応し、活力があり、生徒それぞれの豊かな学びを支え、地域のニーズにこたえる、魅力ある県立高等学校づくりを目指す」こととしました。

これらを受けて、平成24年度以降の県立学校改革を進めるため、平成22年に設置した「県立学校改革推進プラン策定懇談会」の議論等を踏まえ、新たな計画となる「県立学校改革推進プラン」（以下プランという）を平成24年3月に策定しました。プランでは、平成24年度から平成33年度（2021年度）までの10年間の県立学校改革に関する基本的な考え方を示しており、これまで具体計画である実施プログラムを第1次から第3次の3回にわたって策定し、高校改革を推進してきました。

2 第1次～第3次実施プログラムによる高校改革の実施状況

(1) 魅力ある県立学校づくりの推進

不足する人材の育成などを視野に入れ、教員基礎コースや医歯薬コース、福祉コース等、社会のニーズに対応したコースを設置したほか、学び直しや実践的なキャリア教育を通して、自立した社会人を育成する地域連携アクティブスクールを設置しました。

また、世界を舞台に活躍できる人材を育成するグローバルスクールや、本県2校目となる併設型中高一貫教育校、科学技術系人材を育成する理数科を設置したほか、東日本大震災の経験を踏まえ、防災の学びを導入しました。

職業系専門学科では、農業教育、工業教育、福祉教育の拠点校を設置しました。また、進学を視野に入れた理数工学科を設置したほか、中学生や保護者、中学校関係者等にわかりやすい名称に変更するなど学科再構成を行うこととしています。

さらに、大学卒業後の就業までを見通した職業意識の高い人材を育成するため、普通科の転換により進学を重視した総合学科を設置しました。

(2) 県立学校の適正規模・適正配置

中学校卒業生数が引き続き減少する地域では、活力ある教育活動を維持するとともに魅力ある高等学校づくりを推進するため、夷隅地区で1組3校の統合を実施しました。また、市原地区で1組2校の統合を実施することとしています。

Ⅱ 県立高等学校を取り巻く状況

1 国の近年の動向

○中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会「審議まとめ」

平成 26 年 6 月、高校教育の質の確保・向上に向けた基本的考え方や具体的方策を整理した「審議まとめ」が取りまとめられました。同まとめでは、「共通性の確保」を図りつつ、生徒の卒業後の進路が多様になっていることなどを踏まえ、「多様化への対応」も併せて進めることで、高校教育の質の確保・向上を目指すこととしています。

○「高大接続改革実行プラン」

平成 27 年 1 月、高大接続改革を現実のものとする抜本的な改革を進めるプランが策定されました。同プランの中で、高校教育においては、義務教育までの成果を確実につなぐとともに高等学校教育の質の確保・向上を図り、自分の夢や目標を持って主体的に学ぶ力を身につけさせることとしています。

○「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」

平成 28 年 12 月には、中央教育審議会が、新しい時代にふさわしい学習指導要領等の基本的な考え方などを取りまとめました。答申では、改善の方向性として、「何ができるようになるか」など 6 つの項目に沿ってまとめるよう求めています。また、これからの時代を生きていくために必要な力とは何かを、学校と社会が共有し、共に育てていく「社会に開かれた教育課程」の考え方を提唱しています。

2 本県の近年の動向

○第 2 期教育振興基本計画「新 みんなで取り組む『教育立県ちば』プラン」

平成 27 年 2 月に策定された同計画では、10 年後の子どもたちの目指す姿などを第 1 期計画から継承しつつ、具体的な方向として、「人間形成の場としての活力ある学校づくり」など 17 の施策と、「活力ある学校づくり」など 60 の特色ある取組が示されました。

○千葉県教育の振興に関する大綱

地方教育行政の組織及び運営に関する法律の改正により設置された総合教育会議において、平成 27 年 10 月に、同大綱が定められ、基本方針の一つとして、社会の変化に対応できる確かな学力と、将来への夢や希望を持って歩んでいく姿勢の育成を掲げ、誰もが自らの将来の夢や希望を持ち、その実現に向けて、志と自信を持って歩んでいくことのできる姿勢を育む、キャリア教育の充実を図ることとしました。

○千葉県総合計画「次世代への飛躍 輝け！ちば元気プラン」

平成 29 年 10 月に、県政全般に関する最上位の基本的かつ総合的な計画である「新 輝け！ちば元気プラン」を改定し、「くらし満足度日本一」を基本理念に掲げ、「安全で豊かなくらしの実現」「千葉の未来を担う子どもの育成」「経済の活性化と交流基盤の整備」を基本目標とし、平成 32 年度（2020 年度）の千葉県の目指す姿の実現に向けた 4 年間で重点的に取り組む政策・施策を示す新たな総合計画を策定しました。

Ⅲ プランの一部改訂の考え方

プランでは、「キャリア教育・職業教育の推進」を重点事項の一つとして掲げ、普通科については、一層の特色づくりを推進するとともに、専門学科・総合学科については、専門の学びを生かした教育の充実や活性化などを推進することとしています。

このプランに基づき、これまで拠点校の設置や学科再構成等により、職業系専門学科の充実を推進してきました。

特に工業教育については、企業や大学、関係機関等との連携組織である「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」を設置（平成26年8月）し、会員の方々との積極的な意見交換や、実習に必要な施設設備の提供に向けた連絡調整など、工業高校を支援していただく連携体制を構築してきました。

また、不足する人材の育成を視野に入れて設置した福祉コースについては、介護職員初任者研修修了の資格取得状況が良好であり、コースを選択した生徒の満足度も高く、近隣中学校においてもその取組は高く評価されています。

一方、プラン策定から5年が経過し、高校教育を取り巻く状況は大きく変化しています。

平成26年6月に、中央教育審議会初等中等教育分科会高等学校教育部会がとりまとめた「審議まとめ」では、若者のコミュニケーション能力の低下や、職業意識・職業観の未熟さ、進路意識や目的意識の希薄さなどの課題が指摘されています。そのため、社会的・職業的自立を支援するキャリア教育や職業教育の充実が強く求められており、併せて、学校が産業界や地域・社会と連携・協働を進めて人材を育てていくことが必要であるとしています。

さらに、平成28年12月に中央教育審議会が答申した「学習指導要領等の改善及び必要な方策等」においては、子供の姿や地域の実情を踏まえつつ、地域や社会における産業の役割を理解し地域創生に生かす力などを育てていくことが重要であるとしています。

また、千葉県地方創生「総合戦略」においても、社会の変化や産業の動向等に対応し、地域を支える人材を育成するための、キャリア教育の充実が求められています。

そうした中、本県でも少子高齢化が一層進展し、労働人口が減少するなど、ものづくり人材の確保が懸念されています。また、介護需要が大幅に増加し、福祉に携わる人材の育成・確保が喫緊の課題となっています。

プランは、平成33年度（2021年度）を目標年次としていることから、引き続きプランに基づき高校改革を推進してまいりますが、プランでは「平成24年度からの5年間（前期）と、平成29年度からの5年間（後期）」に分けて、「必要に応じて見直しも考慮」することとしており、引き続き魅力ある高等学校づくりを推進するためには、職業系専門学科・コースの更なる充実が必要であることから、このたび、プランの一部を改訂することとしました。

IV プランの一部改訂

1 工業科

工業科については、プランに基づいて、「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」を設置するとともに、進学を視野に入れた理数工学科を新たに設置するなど、工業教育の充実を進めています。

一方で、京葉臨海コンビナートには大手製造業の工場が多数立地し、新卒者を地元から多く採用したいとの企業からの要望があり、特に高校生の採用にあたっては、工業（ものづくり）の基礎や基本を学んだ生徒を求めています。

そこで、県や市の産業振興関連施策と連動し、ものづくり若手人材の確保・育成を支援することにより、京葉臨海コンビナートの競争力強化や中小企業の活性化に寄与するためにも、工業に関する学科の設置校がない第9学区に、工業を学べる環境を整備するという観点から、プランで示した工業科の【具体計画の方向】を次のように一部改訂します。

【具体計画の方向】（ゴシック表記の部分が改訂箇所）

- 進学を視野に入れた教育や、より一層の資格取得の充実を推進するとともに、工業教育の手法について、研究・開発を一層推進し、県全体の工業教育の底上げを図るため、工業教育の拠点校を設置します。
- 工業教育の質を高め、ものづくりの実践力を育成するため、拠点校を中心として、企業（工業団地）・大学・研究機関・現代産業科学館・地域・行政機関等との連携を一層推進する組織（コンソーシアム）を設置します。
その際、高等専門学校のような高度な学びの場の創設等についても検討します。
- 地域産業や産業振興施策との整合性を踏まえるとともに、**生徒の地元への就職や地域の活性化等を考慮して、工業高校の配置やわかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成、普通科への工業に関するコースの設置等**を実施し、工業教育の充実を図ります。
- 将来にわたって、ものづくりを担う人材を育成していくために、積極的かつ効果的な広報活動に取り組み、工業教育の裾野の拡大に努めます。

《参 考》工業系高校人材育成コンソーシアム千葉の概要

- ◇ 設置年月 平成 26 年 8 月
- ◇ 目 的 企業が有する産業技術、大学や研究所の知識・設備などを生かしながら、産・学・官が相互に連携して、千葉県の高専における工業教育の質を高め、ものづくりの実践力を育成する。
- ◇ 会員構成 54 団体（平成 29 年 2 月 1 日現在）
県内企業（12 社）、大学（9 校）、専門学校（4 校）、
関係機関（15 団体）県機関（6 所属）、工業高校（8 校）
- ◇ 取組実績 ・工業高校に対し技術指導等を行う企業との連絡調整
・実践力育成に向けた意見交換会の開催
テーマ「進学に必要な学力」「基礎学力とコミュニケーション能力」
・広報に関する取組（会報の発行、ロボットフォーラムへの出展）
・工業高校職員の研修会

2 福祉科

福祉科については、プランに基づいて、福祉教育の拠点校を設置するとともに、福祉コースの設置を進めており、福祉コースや総合学科の福祉系列設置校では、介護職員初任者研修など、卒業後の進路選択に有効となる福祉教育を実践しています。

また、プランの評価では、松戸向陽高校の福祉コースを選択している生徒の満足度は高く、その取組は、近隣中学校や福祉関係団体からも高く評価されています。

一方で、県全域が直面している急速な高齢化の進展により、介護サービス需要の大幅な増加が見込まれ、介護人材の育成や確保が喫緊の課題となっています。福祉コースや系列が設置されていない第1学区（千葉市）においても、高齢者の更なる増加が見込まれているため、福祉コースの設置により、地域に必要とされる人材の育成に対応する観点から、プランで示した福祉科の【具体計画の方向】を次のように一部改訂します。

【具体計画の方向】（ゴシック表記の部分が改訂箇所）

- 福祉教育の手法について研究を推進し、県全体の福祉教育のレベルアップを図るため、福祉教育の拠点校を設置します。
拠点校と福祉コースや看護科を有する学校とのネットワークを構築することにより、学校間の連携を強化し、地域や県全体の福祉教育の充実を図ります。
- **地域のニーズ、急速な高齢化の進展に伴い不足する介護人材の育成、地域バランス等を踏まえ、生徒の地元への就職や地域の活性化等を考慮し、福祉関係の系列（総合学科）やコースを各学区に設置します。**
- 福祉関係への就業を目指す生徒が、福祉現場の現状を理解し、課題意識を持って学ぶとともに、福祉の職に就き、定着できるよう、行政機関・社会福祉協議会・社会福祉施設と連携する仕組みを設けます。
- 福祉に関する専門的な知識・技術をより深めるため、大学や専門学校との連携を一層推進します。

《参 考》千葉県の高齢者人口等の見込み及び福祉コース・系列等設置高校数（公立）

単位：人、%、校

圏 域	公立高校 の学区	平成 22 年		平成 37 年(2025 年)		高齢者人口 の増加	増加率	増加率 順位	福祉コース等 設置高校数
		高齢者人口	高齢化率	高齢者人口	高齢化率				
千 葉	1	198,850	21.4%	294,069	30.4%	95,219	47.9%	2	0
東葛南部	2・3	318,099	18.9%	437,841	25.9%	119,742	37.6%	5	1
東葛北部	2・3	279,825	21.2%	388,617	29.4%	108,792	38.9%	4	2
印 旛	4	139,458	19.8%	208,390	30.4%	68,932	49.4%	1	1
香取海匝	5	81,755	27.3%	90,932	36.8%	9,177	11.2%	8	1
山武長生夷隅	6・7	120,924	26.6%	149,574	37.5%	28,650	23.7%	7	2
安 房	8	46,155	33.9%	48,217	42.3%	2,062	4.5%	9	1
君 津	9	76,419	23.4%	98,106	32.9%	21,687	28.4%	6	1
市 原	9	58,635	21.1%	82,019	31.3%	23,384	39.9%	3	1
県全体	—	1,320,120	21.5%	1,797,765	30.0%	477,645	36.2%	—	10

※圏域、高齢者人口、高齢化率、高齢者人口の増加、増加率及び増加率順位は、「千葉県高齢者保健福祉計画（平成 27 年度～平成 29 年度）」（平成 27 年 3 月策定）に基づく。

V プラン（要約版）

一部改訂により、県立学校改革推進プランは次のとおりとなります。今後はこのプランに基づいて引き続き高校改革を推進してまいります。

1 魅力ある県立学校づくりの推進（ゴシック表記の部分が改訂箇所）

区 分		具体計画の方向
(1) 普通系 普通科及び 専門学科・ コース	普通科	○医師、教員、介護従事者等不足する人材の育成などを視野に入れ、社会のニーズに対応したコースを設置する。 ○地域や学校及び生徒の実態に応じて、教育課程や教育内容、指導方法の工夫・改善を行う。
	英語科、国際科	○既設の英語科については、必要に応じて学科の改編を行う。 ○既設の国際科については、教育内容の一層の充実を図る。
	理数科	○理数科を新たに2校程度に設置する。
	その他 (体育、芸術)	○必要に応じて系列やコースへの転換など、学科・コースの改編を行う。
(2) 職業系 専門学科・ コース	農業科	○農業教育の拠点校を設置する。 ○必要に応じて、学科再構成等を行う。
	工業科	○工業教育の拠点校を設置する。 ○企業・大学・研究機関・現代産業科学館・地域・行政機関等との連携を一層推進する組織(コンソーシアム)を設置する。 ○わかりやすい学科名への変更を含めた学科再構成を実施する。 ○普通科に工業に関するコースを設置する。
	商業科	○商業のスペシャリスト育成等に対応したコースや科目等を設置する。
	水産科	○学科やコース、専攻科等の在り方について検討する。
	福祉科	○福祉教育の拠点校を設置する。 ○福祉関係の系列やコースを各学区に設置する。
	その他 (家庭、看護、情報)	○教育内容の一層の充実を図るとともに、必要に応じて、新たな学びの場を設ける。
	総合技術高校	○教育内容の一層の充実を図る。
(3) 総合学科	○普通科の転換により、総合学科を3～5校程度設置する。 ○既設の総合学科については、教育内容の一層の充実を図る。	

(4) 社会のニーズに 対応した教育	単位制高校	○単位制を進学指導重点校など2校程度に導入する。
	中高一貫教育校	《連携型中高一貫教育校》 ○既設の連携型について、教育内容の一層の充実を図るとともに、新たな設置について検討する。 《併設型中高一貫教育校・中等教育学校》 ○2校程度設置する。
	観光・環境・防災	《観 光》 ○新たな系列やコース、科目等を設置する。 《環 境》 ○新たな系列やコース、科目等を設置する。 《防 災》 ○必要に応じて防災について学べる科目等を設置する。
	地域連携アクティブスクール	○地域連携アクティブスクールを4校程度設置する。
	コミュニティ・スクール	○コミュニティ・スクールを設置する。

2 県立学校の適正規模・適正配置

区 分	具体計画の方向
(1) 全日制高校の配置	○学校の規模・配置の適正化を進める。 ○1校当たりの適正規模を、原則都市部で1学年6～8学級、郡部で1学年4～8学級とする。 ○適正規模の観点から、5～6組程度の統合を見込んでいるが、学校の適正な配置に当たっては、私立学校関係者を含めた地域協議会などを設け、地域関係者からも意見を聴きながら、検討を進める。
(2) 定時制高校の配置	○配置の適正化を図る。 ○既設の夜間定時制高校については、必要に応じて、設置学科を含め、その在り方について検討する。 ○多部制定時制高校については、新たな設置について検討する。 ○既設の三部制定時制高校について、一層の充実を図る。
(3) 通信制高校の配置	○教育内容の一層の充実を図る。

Ⅵ これからの高校改革

1 プランに基づいた高校改革

県立学校改革推進プランは、平成 33 年度（2021 年度）を目標年次としていることから、引き続きプランに基づいて、「魅力ある県立学校づくりの推進」及び「県立学校の適正規模・適正配置」の観点から、高校改革を推進してまいります。職業系専門学科・コースについては、更なる充実を図るため、プランの一部改訂を行い、その内容を踏まえ、新たな実施プログラムを策定しました。

また、再編実施から 3 年目となる学校を対象として、その評価を実施していることから今後の高校改革については、評価の結果を参考にまいります。

2 すべての学校が取り組む魅力ある高等学校づくり

プランでは、基本的コンセプトとして、「生徒が志を持って学び、夢をはぐくむ学校」など 3 点を掲げてあります。このコンセプトは、すべての学校が目指すべき県立高等学校像を示したものであり、具体計画である実施プログラムで示した再編対象校だけでなく、すべての県立高校が、このコンセプトを踏まえながら魅力ある高等学校づくりを推進する必要があります。

魅力ある高等学校づくりを進めるための方策は多様^{*}であり、スーパーサイエンスハイスクール（SSH）やスーパーグローバルハイスクール（SGH）など、国の指定を受けて実践研究に取り組んだり、県教育委員会から進学指導重点校や中高一貫教育重点校などの指定を受け、特色ある教育活動を行っている学校があります。

また、学校の持つ教育力を最大限活用するとともに地域や関係機関等と連携するなど、独自に魅力づくりを推進している学校もあり、県教育委員会では、他校にとって参考となり、優れた成果があったと認められる県立学校については、「魅力ある県立学校づくり大賞」として顕彰しています。

3 高校改革を推進するに当たって

今後、高校改革を推進するに当たっては、地域における県立高校の在り方について、地域関係者から丁寧に御意見を伺い、学校が独自に進める魅力づくりにも生かすため、いただいた意見を関係校に必要な応じて情報提供します。

また、中学生やその保護者、中学校関係者、地域関係者等に改革の内容や取組状況等について理解していただくことが重要であることから、積極的な広報に努めることとし、効果的な広報の在り方について、引き続き検討してまいります。

なお、独自に魅力づくりを進める学校については、特に優れた取組について引き続き顕彰するとともに、広報の手法を含め支援の在り方について検討してまいります。

※ 魅力ある高等学校づくりを進めるための様々な方策については、参考資料 21 ページを参照。

参考資料

- 1 県立高等学校（全日制）の学科及びコース等の配置
- 2 県立高等学校（定時制・通信制）の配置
- 3 魅力ある高等学校づくりを進めるための様々な方策
- 4 県立高等学校に関するデータ
 - （1）県立高等学校（全日制）の募集学級数（平成 30 年度）
 - （2）県立高等学校第 1 学年生徒募集における学科構成（平成 30 年度）
 - （3）県立高等学校（全日制）設置学科の状況（平成 30 年度）

1 県立高等学校（全日制）の学科及びコース等の配置

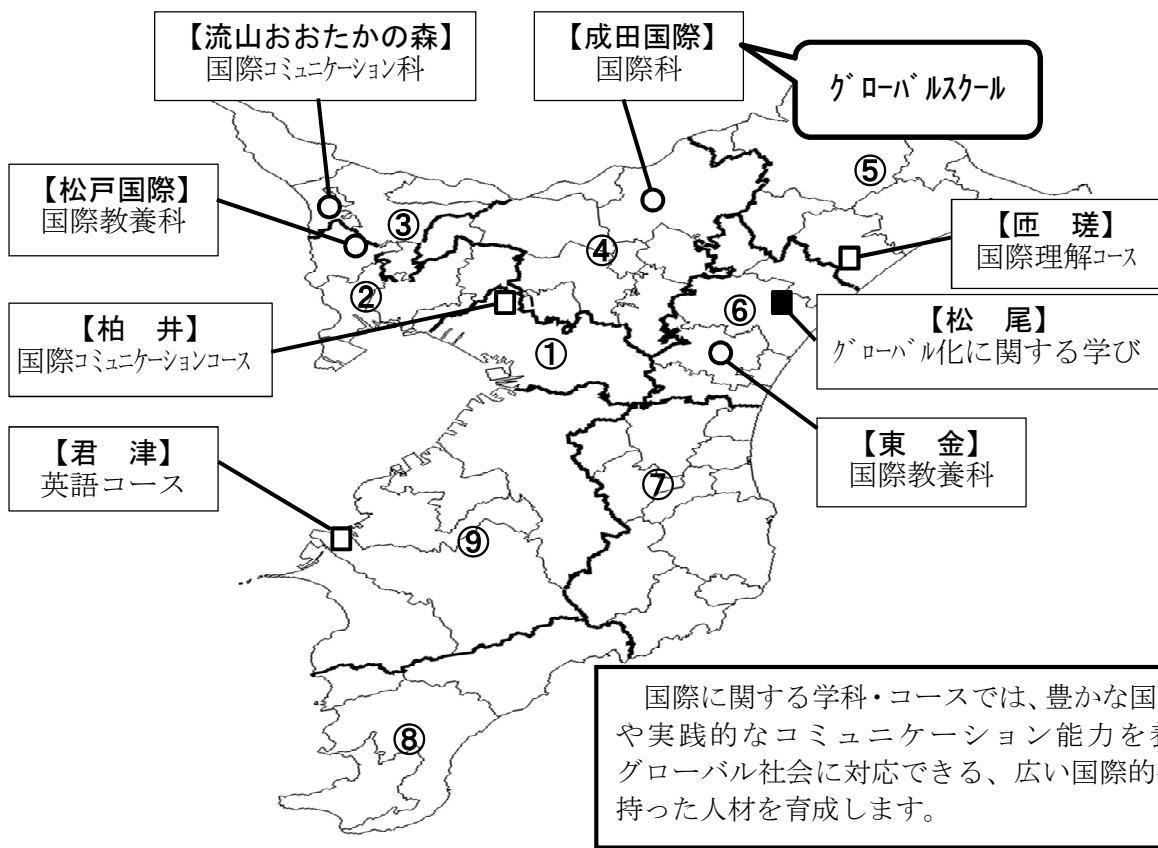
これまで県教育委員会では、県立高等学校再編計画や県立学校改革推進プラン等に基づき、新たなタイプの学校や学科、コース等を設置してきました。ここでは、県立高校にはどのような学科やコースなどがあるか、配置図を使ってわかりやすくまとめました。

【配置図の見方】

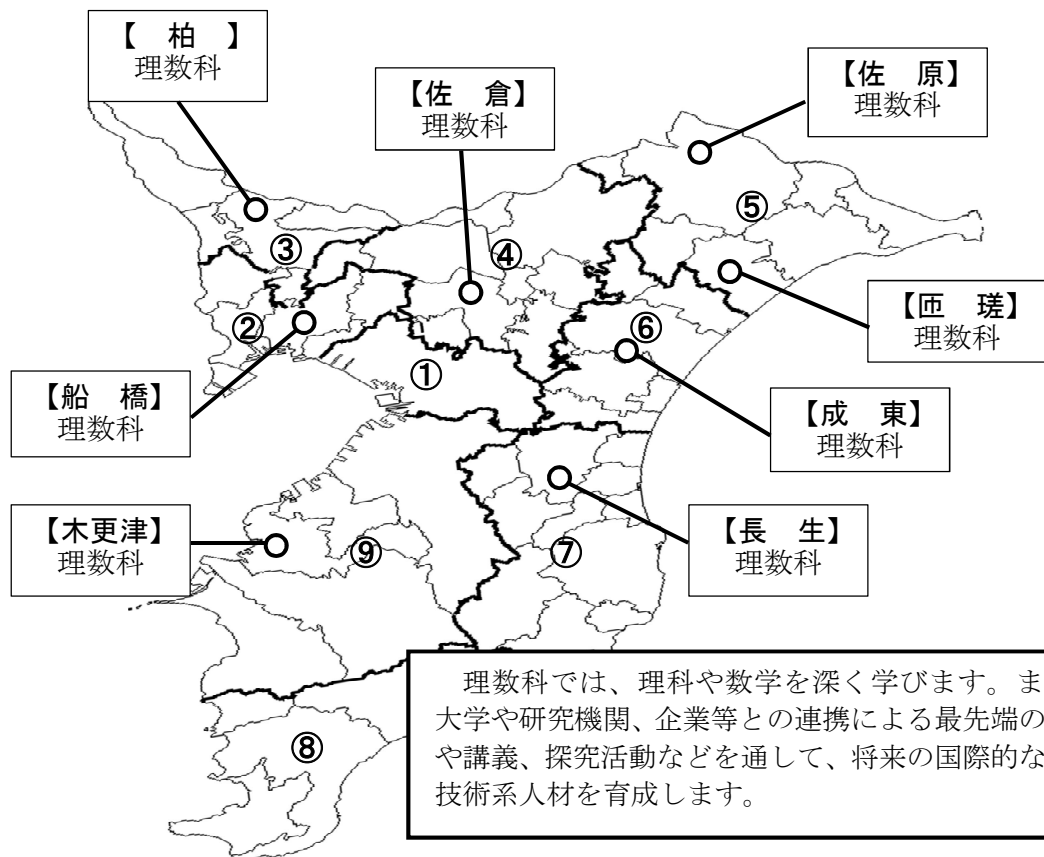
- ・コース及び学びは、再編計画・プランに基づいて設置したものを明記しました。一部改訂した内容も含めたプランに基づき策定した、第4次実施プログラム（本冊の後半に掲載）に基づく再編を含みます。
- ・それぞれの項目ごとに、高校入学後に学ぶことができる内容をまとめました。
- ・図中の①～⑨の数字は、学区を表しています。
- ・図中の記号の示す意味は、以下のとおりです。

- ：学科……………普通科、専門学科、総合学科があります。
- ：コース……………生徒の特性や進路等に応じ、教科や科目を配列したものです。
- △：総合学科の系列……………まとまりのある学習・科目履修ができるよう関連科目をまとめたものです。
- ：学び……………特色ある教科・科目や体験などの教育活動のことです。
- ◎：新たなタイプの学校……………地域連携アクティブスクールを示しています。

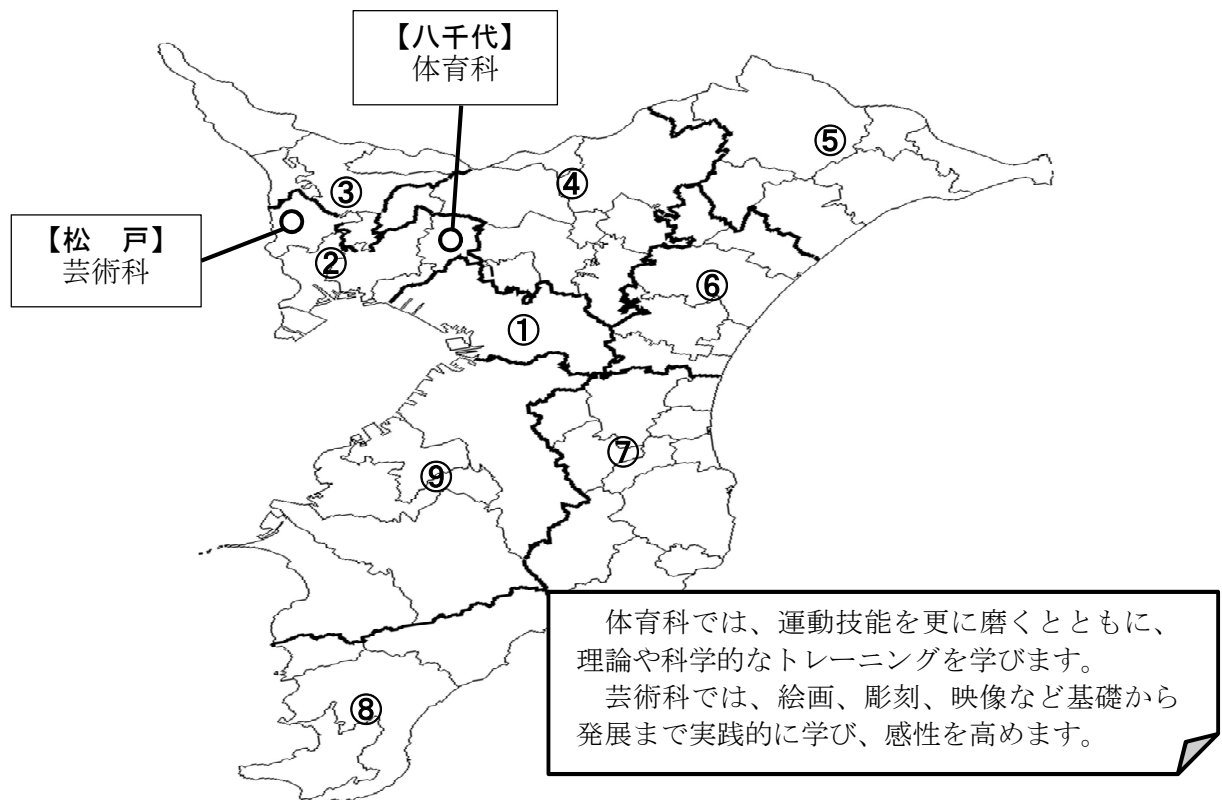
国際科（国際に関するコース設置校、グローバル化に関する学びの導入校を含む）



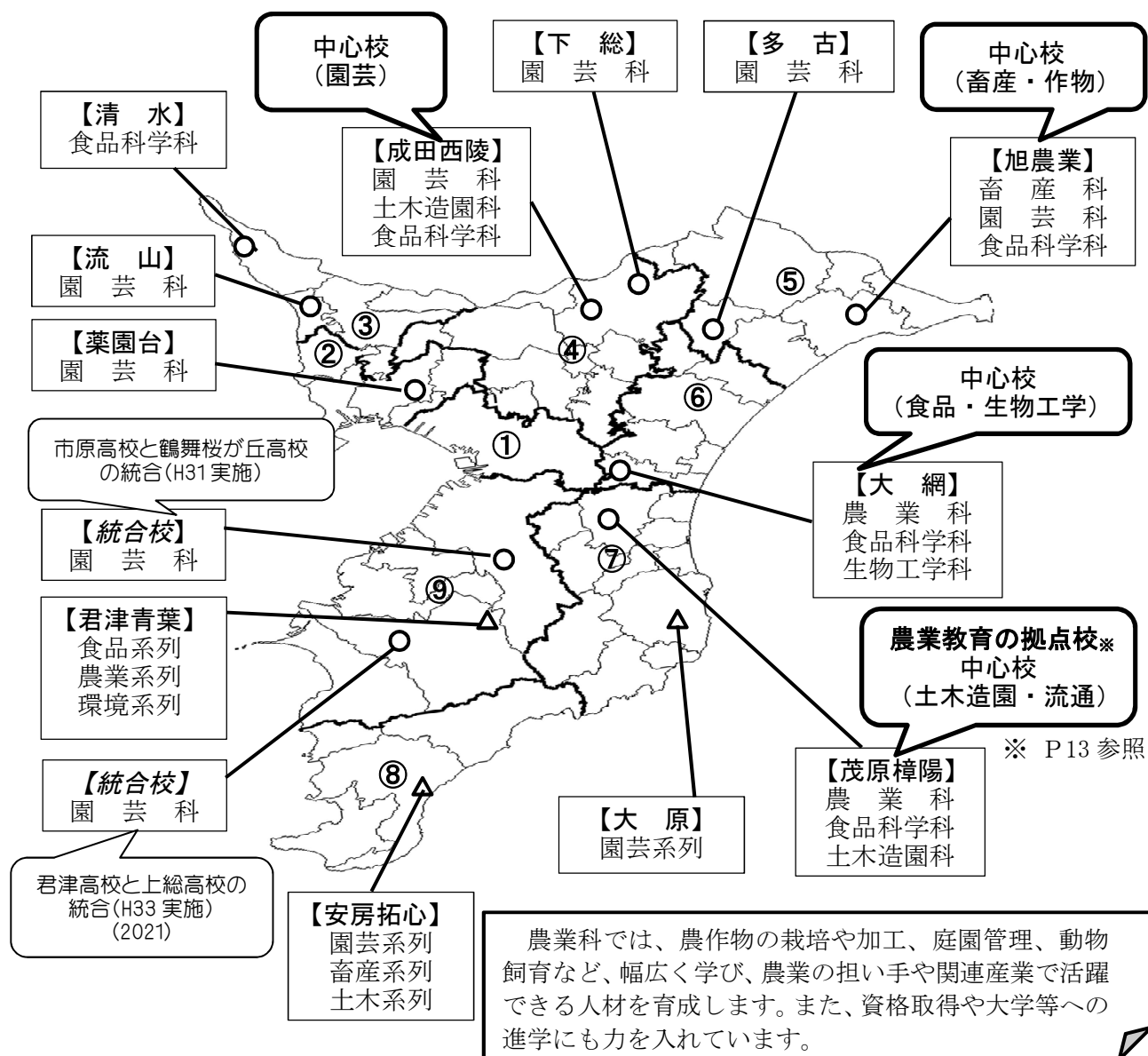
理数科



体育科・芸術科



農業科（農業に関する系列のある総合学科を含む）

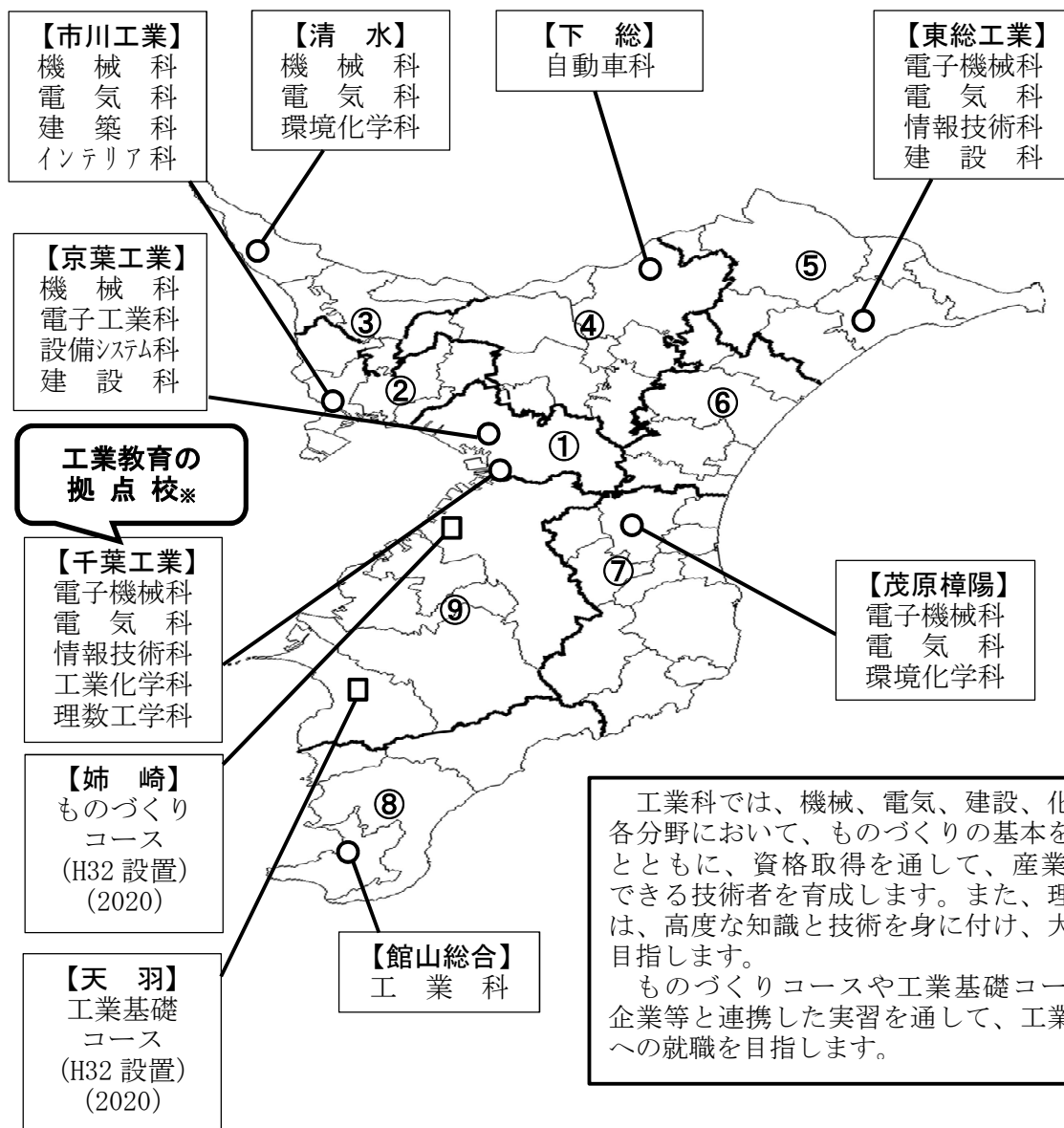


平成 30 年度から、これまで細かく分かれていた 13 の学科を、学習内容に基づいて以下のとおり 6 学科に再構成します。

- 園 芸 科：基礎から幅広く農業を学ぶ学科
- 農 業 科：園芸科の学びに加え動物の飼育等も学ぶ学科
- 食品科学科：食品の加工・製造・流通等を学ぶ学科
- 土木造園科：農業土木と造園の知識と技術等を学ぶ学科
- 畜 産 科：家畜の飼育の知識と技術等を学ぶ学科
- 生物工学科：動植物のバイオテクノロジー等を学ぶ学科

図中の学科名は、再構成後の名称です。

工業科（工業に関するコース設置校を含む）



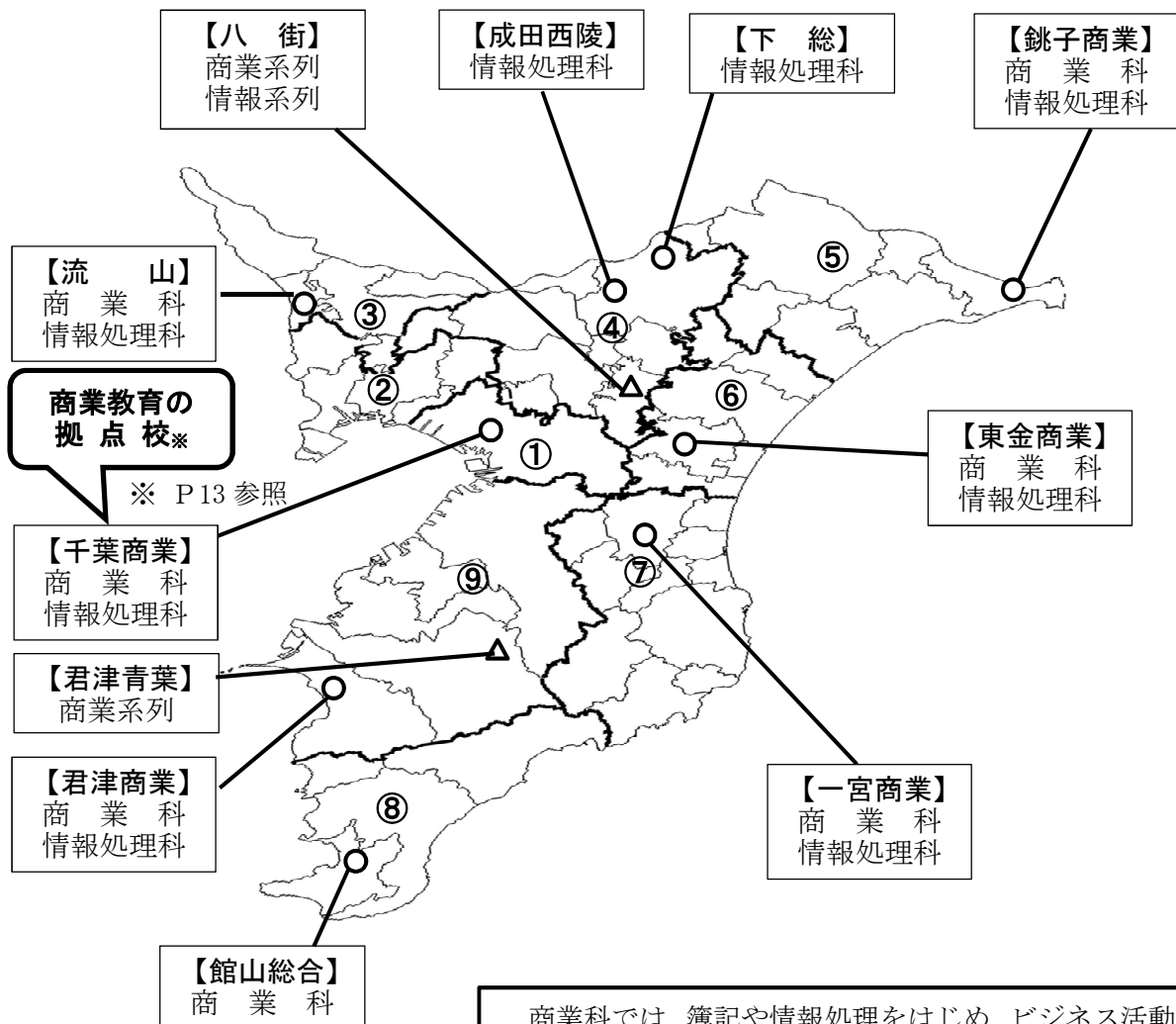
平成 30 年度から、下総高校の学科名を学習内容を表す名称とするため、**航空車両整備科**を、**自動車科**に変更します。
図中の学科名は、変更後の名称です。

※ 拠点校とは…P12（農業科）、P13（工業科）、P14（商業科）、P16（福祉科）に記載

専門学科における先進的な取組を推進し、関係校へ情報提供を行うなど、県全体の専門教育のレベルアップを図る学校です。

また、農業教育においては、拠点校のほかに、**各専門分野の中心校**を指定し、各校の特徴を生かした教育を展開します。旭農業高校は、作物の学びをすべての学科に取り入れています。

商業科（商業に関する系列のある総合学科を含む）



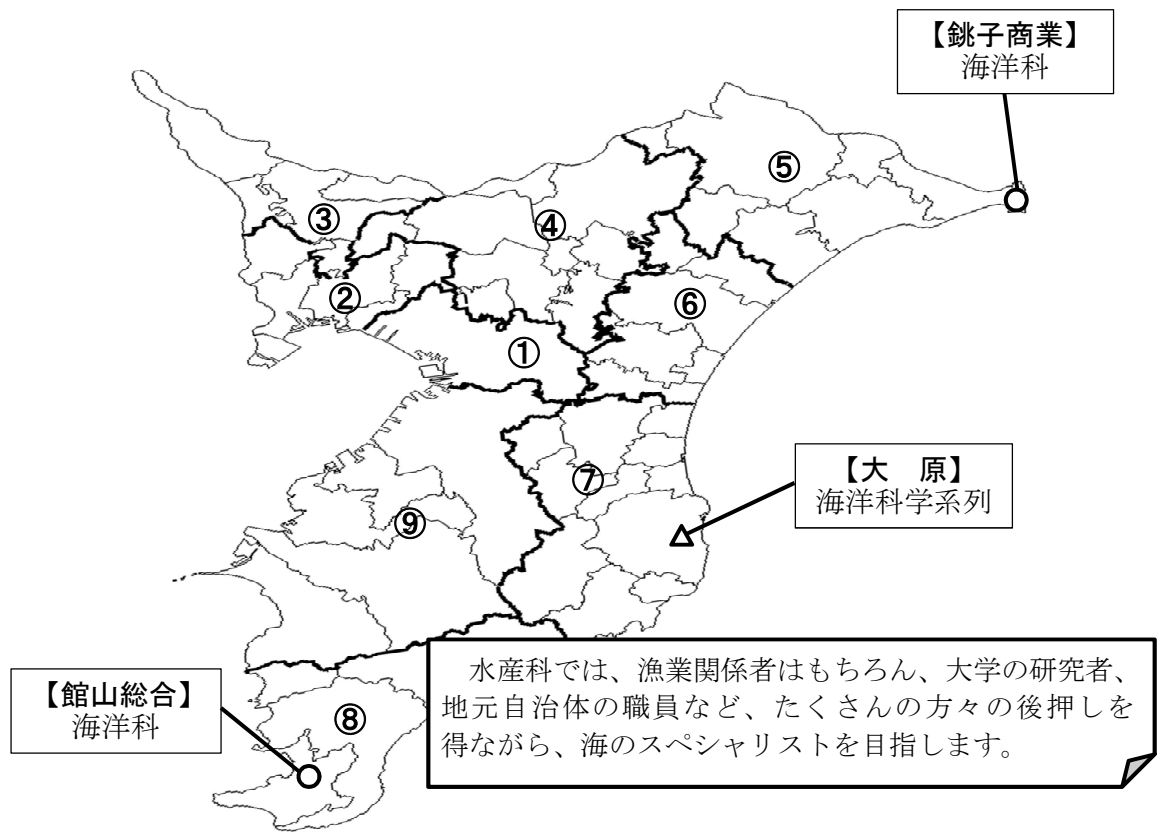
商業科では、簿記や情報処理をはじめ、ビジネス活動に役立つ様々な資格取得を目指します。またパンやアイスクリームなどの商品開発や、募金活動による地元企業の支援など、実践的な学びを通し、地域活性化に積極的に取り組んでいます。

平成 30 年度から、これまで細かく分かれていた 7 つの学科を、学習内容に基づいて以下のとおり 2 学科に再構成します。

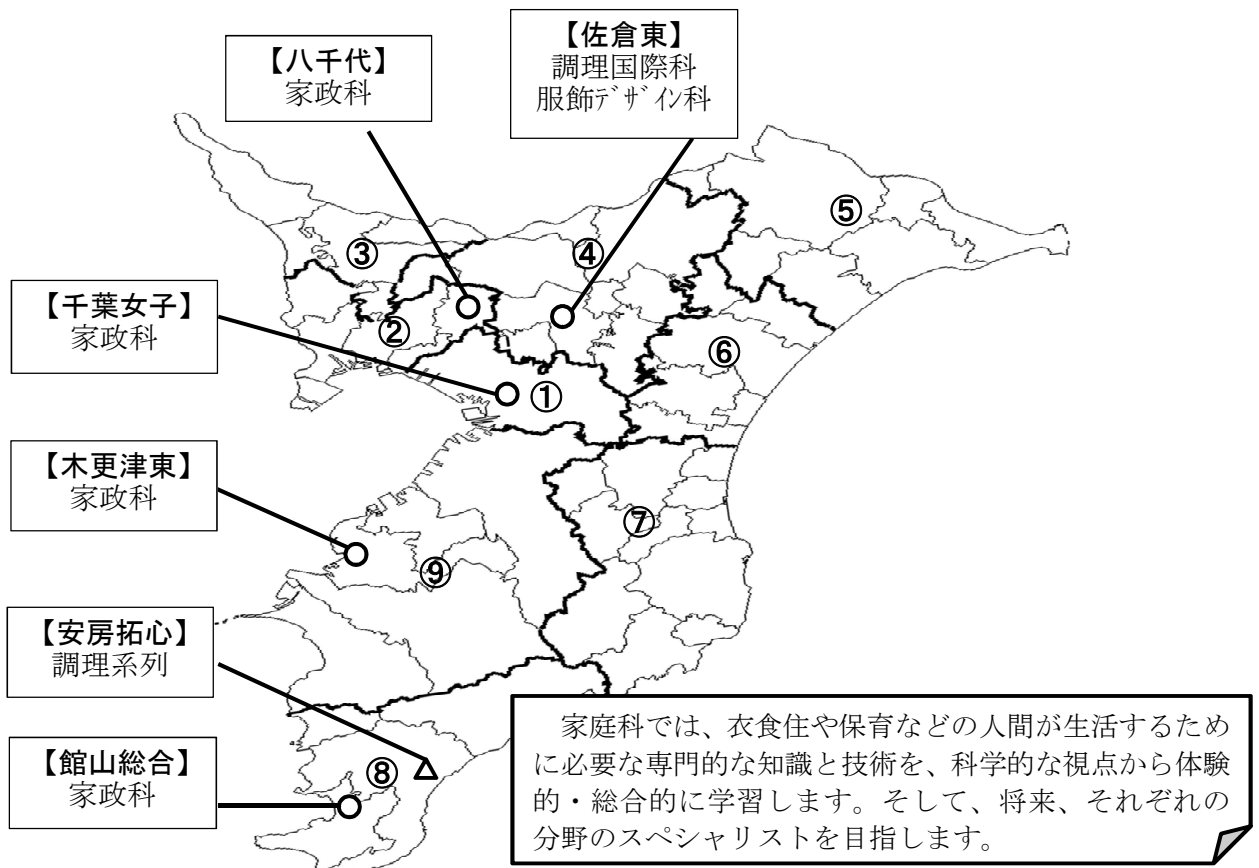
商 業 科：マーケティング・ビジネス経済・会計等を幅広く学ぶ学科
情報処理科：ビジネス情報を中心に学ぶ学科

図中の学科名は、再構成後の名称です。

水産科（水産に関する系列のある総合学科を含む）



家庭科（調理系列のある総合学科を含む）



福祉科（福祉に関する系列のある総合学科、福祉コース設置校を含む）・看護科

福祉教育の拠点校*

※ P13 参照

- 【船橋豊富】福祉コース
- 【我孫子東】福祉コース (H31 設置)
- 【佐倉西】福祉コース
- 【小見川】福祉コース
- 【松戸向陽】福祉教養科 福祉コース
- 【犢橋】福祉コース (H32 設置) (2020)
- 【幕張総合】看護科
- 市原高校と鶴舞桜が丘高校の統合 (H31 実施)
- 【統合校】福祉コース
- 【君津青葉】家庭・福祉系列
- 【長狭】医療・福祉コース
- 【松尾】福祉コース
- 【大原】生活福祉系列

福祉教養科では、介護福祉士の国家試験受験資格を、また、福祉に関する系列・コースでは、介護職員初任者研修の修了を目指します。
看護科では、専攻科までの5年一貫教育により、看護師の国家試験受験資格の取得を目指します。

情報科（情報理数科・情報コミュニケーション科）及び情報系の学科（情報技術科…工業科・情報処理科…商業科）

- 【柏の葉】情報理数科
- 【成田西陵】情報処理科 (商)
- 【下総】情報処理科 (商)
- 【銚子商業】情報処理科 (商)
- 【流山】情報処理科 (商)
- 【千葉商業】情報処理科 (商)
- 【千葉工業】情報技術科 (工)
- 【東総工業】情報技術科 (工)
- 【東金商業】情報処理科 (商)
- 【袖ヶ浦】情報コミュニケーション科
- 【一宮商業】情報処理科 (商)
- 【君津商業】情報処理科 (商)

情報科では、コンピュータや情報通信ネットワークを活用する力を身に付け、情報化社会で活躍できる人材を育成します。
また、情報技術科（工業科）や情報処理科（商業科）でも情報について深く学ぶことができます。

総合学科

【小金】
人文国際系列
数理科学系列
医薬看護系列
芸術文化系列

【幕張総合】
系列は検討中
(H31 設置)

【君津青葉】
普通系列
食品系列
農業系列
環境系列
商業系列
土木系列
家庭・福祉系列

【八街】
人文系列
生活系列
商業系列
情報系列
自然系列

【大原】
普通系列
園芸系列
海洋科学系列
生活福祉系列

【安房拓心】
文理系列
園芸系列
畜産系列
土木系列
調理系列

総合学科では、1年次に履修する「産業社会と人間」で自分の将来の生き方や職業について学習するとともに、2年次からの系列（科目）選択を考えます。
幅広い科目の中から、自分の進路希望、興味・関心に合った科目を選択し、学習することができます。

その他の人材育成等を目指したコース

【東葛飾】
医歯薬コース

【我孫子】
教員基礎コース
(H30 設置)

【成田北】
医療コース
(H32 設置)
(2020)

【市川南】
保育基礎コース
(H31 設置)

【四街道北】
保育基礎コース
(H32 設置)
(2020)

【千葉女子】
教員基礎コース

【長狭】
医療・福祉コース

【君津】
教員基礎コース
(H30 設置)

【安房】
教員基礎コース

教員基礎コースや保育基礎コースでは、出前授業や実習を通して教員や保育士等としての基礎的な素養を身に付けます。
医歯薬コースでは、地元医師会等と連携してインターンシップなどを行い医療従事者となる意欲を醸成します。
医療・福祉コースや医療コースでは、体験的な学習を通して、看護師や理学療法士となる意欲を醸成します。

社会のニーズに対応した教育
 (観光に関するコース、環境に関するコース、観光の学び、防災の学び)

【銚子】
防災の学び

【銚子商業】
海洋環境コース
(海洋科)

【市原八幡】
防災の学び
(H31 導入)

市原高校と鶴舞桜が丘高校
の統合(H31実施)

【統合校】
緑地管理コース
(園芸科)

【館山総合】
栽培環境コース
(海洋科)
観光の学び

「防災の学び」では、東日本大震災の経験を踏まえ、近年の自然災害について学ぶほか、宿泊研修を行い、非常食や防災グッズ等について実践的に体験します。
 「観光の学び」・「緑地管理コース」・「海洋環境コース」・「栽培環境コース」では、本県の豊かな観光資源を活用し、関係団体等と連携しながら、実践的・体験的な授業を行います。

社会のニーズに対応した教育 (地域連携アクティブスクール)

【流山北】
地域連携
アクティブスクール

【船橋古和釜】
地域連携
アクティブスクール

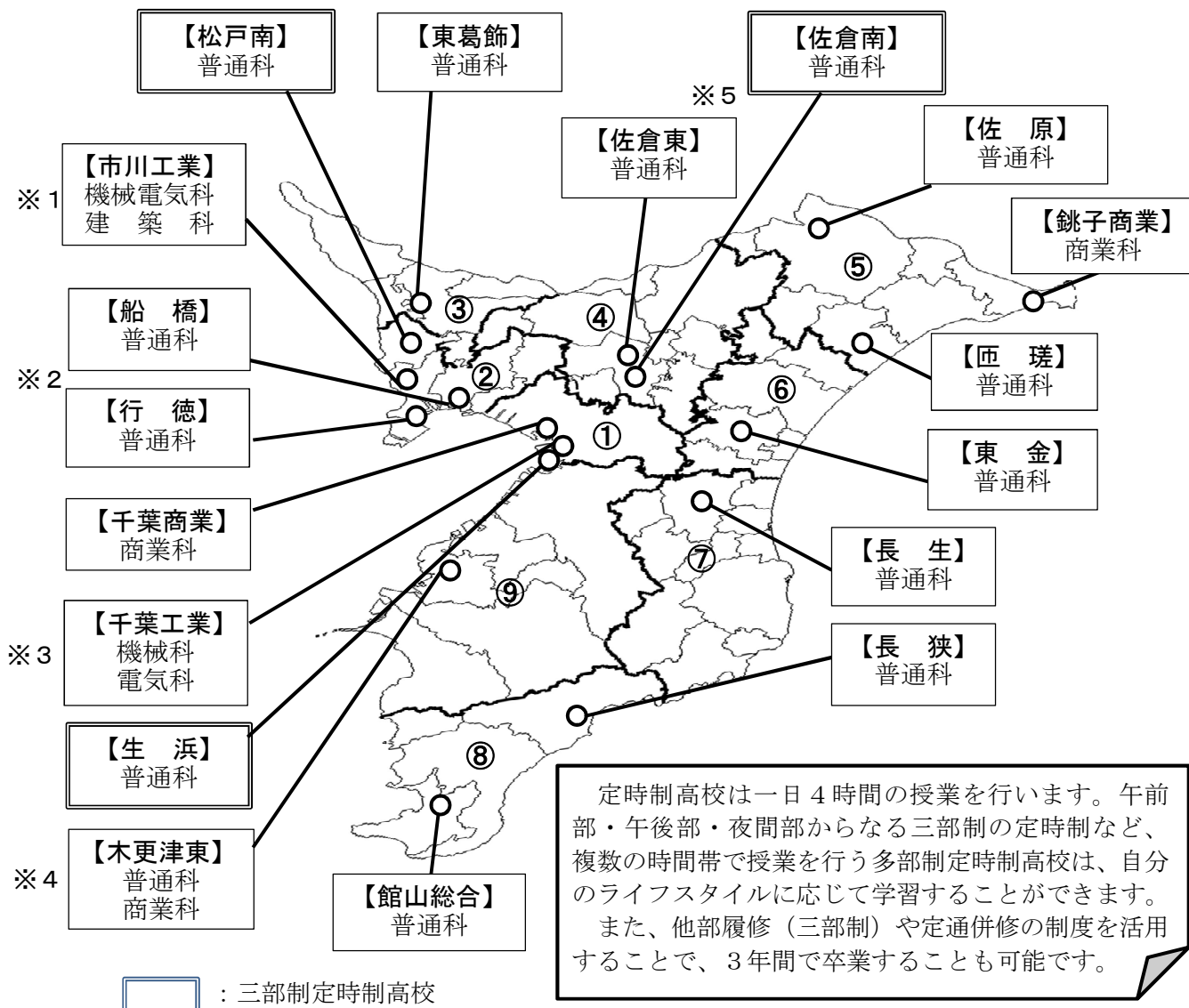
【泉】
地域連携
アクティブスクール

【天羽】
地域連携
アクティブスクール

地域連携アクティブスクールは、中学校では十分力を発揮しきれなかったけれど、高校で心機一転がんばりたい生徒を応援する学校です。基礎基本を確実に身に付けるとともに、「実践的なキャリア教育」を行い自立した社会人を育成します。

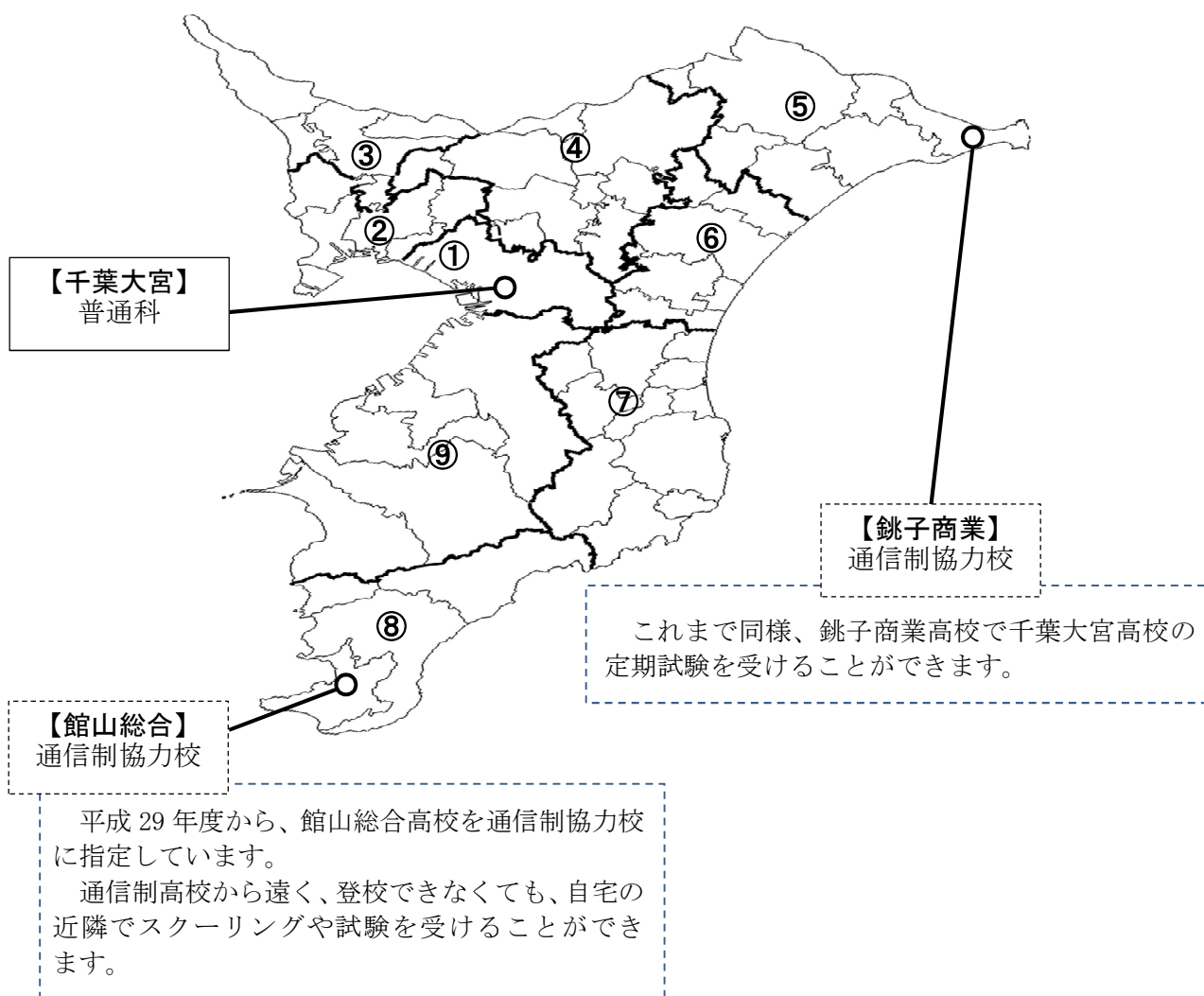
2 県立高等学校（定時制・通信制）の配置

定時制課程



- ※1 平成32年度（2020年度）に、市川工業高校の学科を工業科に再構成します。
- ※2 平成34年度（2022年度）に、船橋高校と行徳高校の定時制課程を統合し、設置学科を総合学科とします。
- ※3 平成32年度（2020年度）に、千葉工業高校の学科を工業科に再構成します。
- ※4 平成32年度（2020年度）に、木更津東高校の学科を再構成し、商業科の募集を停止します。
- ※5 平成34年度（2022年度）に、佐倉南高校に三部制定時制高校を設置します。あわせて佐倉南高校の全日制課程、佐倉東高校の定時制課程の募集を停止し、佐倉東高校定時制課程の在校生は佐倉南高校に転入します。

通信制課程



これまで同様、銚子商業高校で千葉大宮高校の定期試験を受けることができます。

【館山総合】
通信制協力校

平成 29 年度から、館山総合高校を通信制協力校に指定しています。

通信制高校から遠く、登校できなくても、自宅の近隣でスクーリングや試験を受けることができます。

通信制高校は、「いつでも」「どこでも」学習できる高校です。レポートの通信添削が学習の中心ですが、スクーリングや試験など、年間 25 日程度登校します。

3 魅力ある高等学校づくりを進めるための様々な方策

本県の県立高校の中には、千葉県教育委員会や文部科学省等の指定を受けて、特色ある教育活動や実践研究を行っている学校があります。ここでは、その一例を紹介します。

それぞれの取組は各学校のホームページ等で確認することができます。

(1) 千葉県教育委員会が指定

○ 進学指導重点校

組織的で計画的な進学指導を推進し、生徒一人一人の学力向上を図り、生徒の目標達成を支援する教育活動を展開することを目的とします。

【平成 29 年度現在の指定校】(10 校)

千葉東高校、船橋高校、佐原高校、長生高校、木更津高校（平成 16 年度から）
安房高校（平成 19 年度から）
佐倉高校、成東高校（平成 22 年度から）
匝瑳高校（平成 25 年度から）
柏高校（平成 27 年度から）

○ 中高一貫教育重点校

6 年間を通して、生徒たちが探究心と向上心を持ち、自ら粘り強く学び、他者と協力し互いに高め合うことを支援する系統化された教育活動を展開することを目的とします。

【平成 29 年度現在の指定校】(2 組 4 校)

千葉中学校・千葉高校（平成 20 年度から）
東葛飾中学校・東葛飾高校（平成 27 年度から）

○ 新たな学びに関する教員の資質能力向上のためのプロジェクト

児童生徒の主体的・対話的で深い学びを実現するための指導方法の工夫改善に関する取組の推進を目的とします。

【平成 29 年度現在の指定校】(1 校)

我孫子東高校（平成 28 年度から平成 29 年度）

○ 高等学校における特別支援教育の充実

障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とする自立活動等について、高等学校においても実施できるよう「特別の教育課程」の編成に関する研究及び、教科指導等の充実に関する研究を行います。

【平成 29 年度現在の指定校】(2 校)

幕張総合高校、佐原高校（平成 29 年度）

(2) 文部科学省が指定

○ スーパーサイエンスハイスクール (SSH)

先進的な科学技術、理科・数学教育を通して、生徒の科学的能力及び技能並びに科学的思考力及び表現力を培い、将来国際的に活躍し得る科学技術人材の育成を図ることを目的としています。

【平成 29 年度現在の指定校】(5 校)

船橋高校 (平成 21 年度から平成 25 年度、平成 26 年度から平成 30 年度)

柏高校 (平成 16 年度から平成 20 年度、平成 23 年度から平成 27 年度
平成 28 年度から平成 32 (2020) 年度)

佐倉高校 (平成 25 年度から平成 29 年度)

長生高校 (平成 22 年度から平成 26 年度、平成 28 年度から平成 32 (2020) 年度)

木更津高校 (平成 28 年度から平成 32 (2020) 年度)

○ スーパーグローバルハイスクール (SGH)

生徒の社会課題に対する関心と深い教養、コミュニケーション能力、問題解決力等の国際的素養を身に付け、将来、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図ることを目的としています。

【平成 29 年度現在の指定校】(3 校)

成田国際高校、松尾高校 (平成 27 年度から平成 31 年度)

佐倉高校 (平成 28 年度から平成 32 (2020) 年度)

○ スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール (SPH)

大学・研究機関・企業等との連携の強化等により、社会の変化や産業の動向等に対応した、高度な知識・技能を身に付け、社会の第一線で活躍できる専門的職業人を育成することを目的としています。

【平成 29 年度現在の指定校】(1 校)

千葉工業高校 (平成 27 年度から平成 29 年度)

4 県立高等学校に関するデータ

(1) 県立高等学校（全日制）の募集学級数（平成30年度）

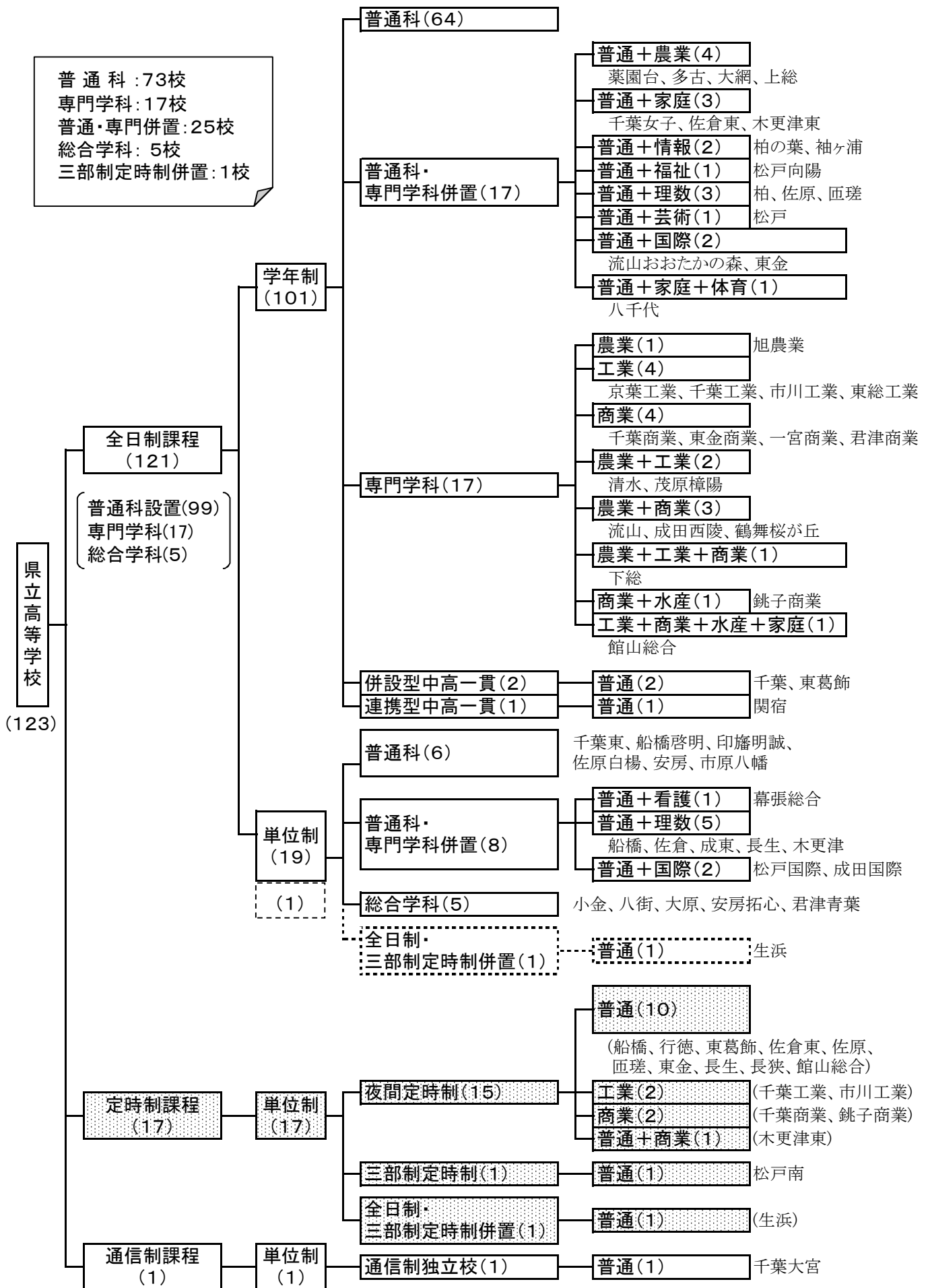
学級数	2	3	4	5	6	7	8	9	19	学校数
普通科		関宿 九十九里 天羽 市原 市原緑	浦安南 小見川 銚子 松尾 大多喜 長狭 京葉 姉崎	泉 八千代西 行徳 沼南 印旛明誠 佐倉西 佐倉南 佐原白楊 茂原	船橋古和釜 船橋法典 船橋豊富 船橋北 浦安 沼南高柳 流山北 白井 富里 四街道北 安房 君津 市原八幡	犢橋 鎌ヶ谷西 我孫子東 成田北	千葉 ※ 千葉南 若松 千城台 磯辺 柏井 土気 八千代東 船橋東 船橋啓明 船橋二和 国府台 国分 市川昴 市川南 松戸馬橋 鎌ヶ谷 東葛飾 流山南 野田中央 我孫子 四街道	千葉東 検見川 千葉北 千葉西 津田沼 実籾 船橋芝山 市川東 松戸六実 柏南 柏陵 柏中央		73
+農業		多古 上総		大網			薬園台			4
+家庭			木更津東		佐倉東		千葉女子			3
+看護									幕張総合	1
+情報						柏の葉 袖ヶ浦				2
+福祉						松戸向陽				1
+理数						匝瑳 成東	柏 佐倉 佐原 長生 木更津	船橋		8
+芸術					松戸					1
+国際				東金			成田国際	松戸国際 <small>流山おおたかの森</small>		4
+体育・家庭								八千代		1
+三部定時	生浜									1
農業			旭農業							1
工業			東総工業		京葉工業	千葉工業 市川工業				4
商業			東金商業 一宮商業	君津商業			千葉商業			4
複数学科設置		鶴舞桜が丘	清水 下総	流山 成田西陵 館山総合	茂原樟陽	銚子商業				8
総合学科			八街 安房拓心 君津青葉		大原		小金			5
学校数	1	8	18	15	18	12	32	16	1	121

県立高等学校数

全日制課程（一部定時制併置）121校 + 定時制課程（単独校）1校 + 通信制課程（単独校）1校 → 計123校

※ 県立千葉中学校からの進学者を含む。

(2) 県立高等学校第1学年生徒募集における学科構成 (平成30年度)



(3) 県立高等学校（全日制）設置学科の状況（平成30年度）

1. 学区別募集学級数

	普通科	普通系 専門	職業系専門学科									専門学科	総合学科	合 計
			計	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉			
第1学区	131		23		13	8		1	1			23		154
第2学区	200	6	10	1	7			1				16	8	224
第3学区	122	2	10	4	3	2					1	12		134
第4学区	64	4	11	6	1	2		2				15	4	83
第5学区	28	2	16	5	4	5	2					18		46
第6学区	19	2	7	3		4						9		28
第7学区	16	1	10	3	3	4						11	6	33
第8学区	10		5		1	1	2	1				5	4	19
第9学区	47	1	11	3		6		1			1	12	4	63
計	637	18	103	25	32	32	4	6	1	2	1	121	26	784

※ 普通系専門学科：理数科、体育科、国際科、芸術科

2. 学区別募集学級数割合

	普通科	普通系 専門	職業系専門学科									専門学科	総合学科
			計	農業	工業	商業	水産	家庭	看護	情報	福祉		
第1学区	85.1%	0.0%	14.9%	0.0%	8.4%	5.2%	0.0%	0.6%	0.6%	0.0%	0.0%	14.9%	0.0%
第2学区	89.3%	2.7%	4.5%	0.4%	3.1%	0.0%	0.0%	0.4%	0.0%	0.0%	0.4%	7.1%	3.6%
第3学区	91.0%	1.5%	7.5%	3.0%	2.2%	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%	9.0%	0.0%
第4学区	77.1%	4.8%	13.3%	7.2%	1.2%	2.4%	0.0%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	18.1%	4.8%
第5学区	60.9%	4.3%	34.8%	10.9%	8.7%	10.9%	4.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	39.1%	0.0%
第6学区	67.9%	7.1%	25.0%	10.7%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	32.1%	0.0%
第7学区	48.5%	3.0%	30.3%	9.1%	9.1%	12.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	18.2%
第8学区	52.6%	0.0%	26.3%	0.0%	5.3%	5.3%	10.5%	5.3%	0.0%	0.0%	0.0%	26.3%	21.1%
第9学区	74.6%	1.6%	17.5%	4.8%	0.0%	9.5%	0.0%	1.6%	0.0%	1.6%	0.0%	19.0%	6.3%
計	81.3%	2.3%	13.1%	3.2%	4.1%	4.1%	0.5%	0.8%	0.1%	0.3%	0.1%	15.4%	3.3%

※ 表中の割合は、小数点以下第2位を四捨五入し表記しているため、合計が100%にならない場合がある。

